

経済情勢

(6月の経済指標を中心に)

1. 経済動向の概要（政府の基調判断）

【全国】 内閣府「月例経済報告（令和8年8月）」（8月27日公表）

基調判断	景気は、緩やかに回復しているが、中東情勢や自然災害の影響を注視する必要がある。
業況判断	おおむね横ばいとなっている。ただし、先行きについてはやや慎重な見方となっており、中東情勢の影響を注視する必要がある。
個人消費	持ち直しの動きがみられる
住宅建設	総じて横ばいとなっている
設備投資	持ち直している
公共投資	堅調に推移している
輸出	持ち直しの動きがみられる
輸入	おおむね横ばいとなっている
生産	横ばいとなっている
雇用情勢	改善の動きがみられる

【中国】 中国経済産業局「中国地域の経済動向（2026年6月の指標を中心に）」（8月21日公表）

基調判断	緩やかな持ち直しの動きがみられる
景況感	現状、先行きともに前月に比べ上昇
個人消費	緩やかな持ち直しの動きがみられる
建設動向	公共工事は前年同月比で減少、住宅建設は前年同月比で増加
設備投資	2026年度計画は前年度を上回る見込み
貿易	輸出、輸入ともに前年同月比で増加
生産動向	緩やかな持ち直しの動きがみられる
雇用情勢	有効求人倍率は前月に比べ上昇、新規求人数は前年同月比で増加

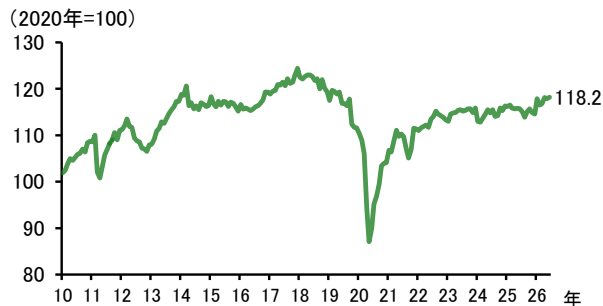
2. 景気動向指数・景気ウォッチャー調査(6月)

景気動向指数(全国C I)は、一致指数は2カ月ぶりに上昇、先行指数は前月から横ばいとなった。
景気ウォッチャー調査(現状判断D I)は、全国は2カ月連続で上昇、中国は3カ月連続で上昇した。

● 景気動向指数(C I)

(一致指数)

・118.2(前月差+0.3ポイント)と2カ月ぶりに上昇。

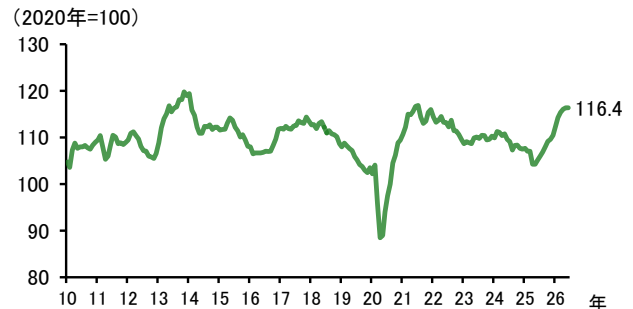


C I 一致指数(前月差)	0.3
---------------	-----

指標名	寄与度
商業販売額(卸売業)	0.49
投資財出荷指数(除輸送機械)	0.37
鉱工業生産指数	0.22
有効求人倍率(除学卒)	0.16
営業利益(全産業)	0.11
労働投入量指数(調査産業計)	0.00
鉱工業用生産財出荷指数	0.00
輸出数量指数	▲0.17
耐久消費財出荷指数	▲0.25
商業販売額(小売業)	▲0.61

(先行指数)

・116.4(前月差±0.0ポイント)と前月から横ばい。



C I 先行指数(前月差)	0.0
---------------	-----

指標名	寄与度
中小企業売上げ見通しD I	0.36
新設住宅着工床面積	0.23
新規求人数(除学卒)	0.15
東証株価指数	0.10
消費者態度指数	0.07
最終需要財在庫率指数(逆)	▲0.10
マネースtock(M2)	▲0.14
鉱工業用生産財在庫率指数(逆)	▲0.37
日経商品指数(42種総合)	▲0.48
実質機械受注(製造業)	
投資環境指数(製造業)	

注:1. 景気動向指数(CI)は景気変動の大きさやテンポ(量感)を測定することを目的としている。資料は内閣府「景気動向指数(速報)」。

2. 景気動向指数とは、生産、雇用など重要な景気に敏感な指標の動きを統合することによって、景気の現状把握および将来予測に資するために作成されたもので、景気に対し先行して動く先行指数、ほぼ一致して動く一致指数、遅れて動く遅行指数の3本の指数がある。

● 景気ウォッチャー調査(D I)

(全国)

- ・現状判断D Iは、44.0(前月差+0.4ポイント)と2カ月連続で上昇。
- ・先行き判断D Iは、45.7(前月差+5.0ポイント)と3カ月連続で上昇。



(中国)

- ・現状判断D Iは、45.0(前月差+0.8ポイント)と3カ月連続で上昇。
- ・先行き判断D Iは、43.8(前月差+2.9ポイント)と3カ月連続で上昇。



注:1. 景気ウォッチャー調査は、地域の景気に関連の深い動きを観察できる立場にある人々の協力を得て、地域ごとの景気動向を的確かつ迅速に把握し、景気動向判断の基礎資料とすることを目的としている。資料は内閣府「景気ウォッチャー調査」。

2. 季節調整値

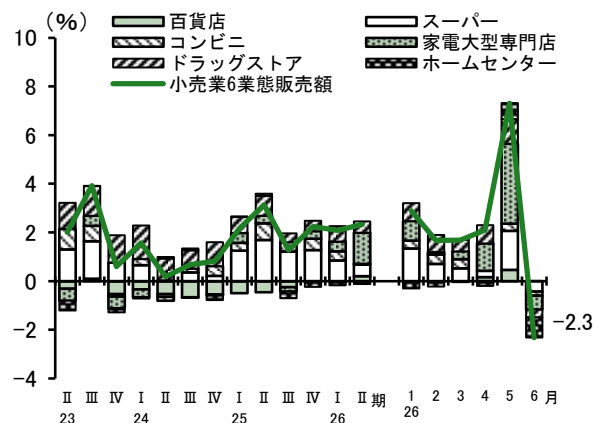
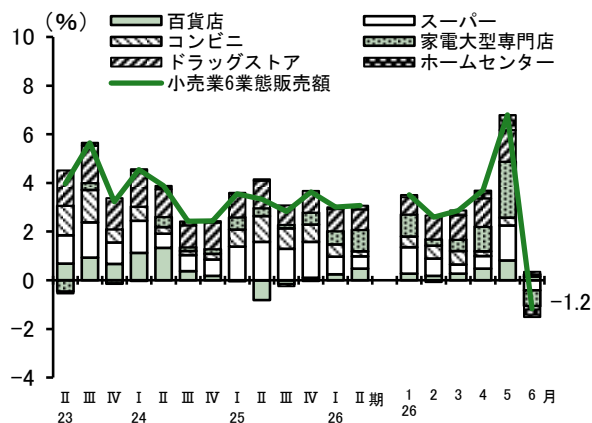
3. 個人消費（6月）

小売業6業態販売額は、全国、中国ともに前年を下回った。

● 小売業6業態販売額 [対前年伸び率]

(全国) 55カ月ぶりに前年比マイナス（前年同月比▲1.2%）。物価上昇の影響を受けて、買い上げ点数の減少や安価商材へのシフトなど消費者の節約志向が続いている。今月は例年に比べ気温が低く推移したことなどから、夏物衣料やエアコンなど季節商材の購買需要が伸び悩んだ。

(中国) 6カ月ぶりに前年比マイナス（前年同月比▲2.3%）。全国同様、物価上昇の影響を受けて消費者の節約志向が続いている。今月は雨天が重なり気温が低く推移したことなどから、夏物衣料やエアコンなど季節商材の購買需要が伸び悩み、小売業6業態全てがマイナスとなった。



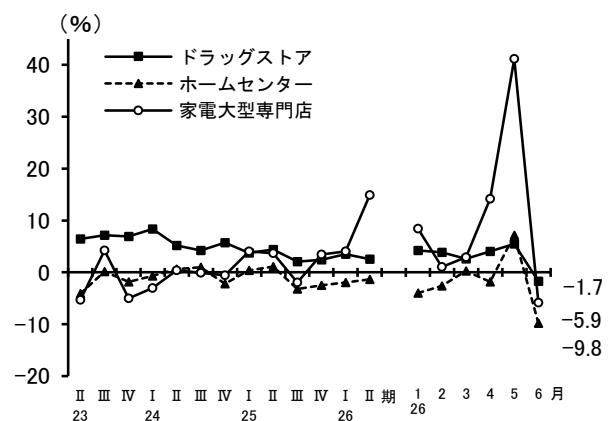
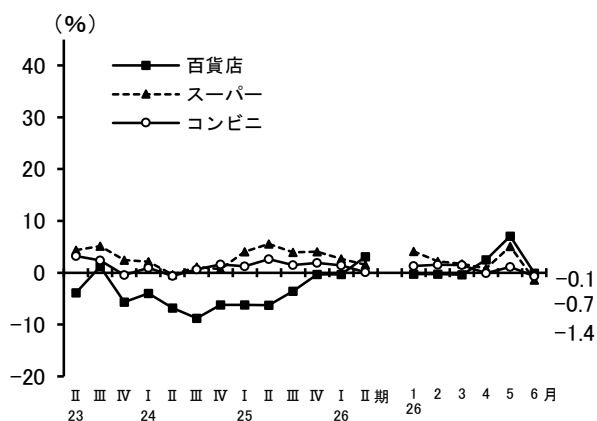
注：1. 全店舗ベース 2. 小売業6業態は、百貨店、スーパー、コンビニエンスストア、家電大型専門店、ドラッグストア、ホームセンター
資料：経済産業省「商業動態統計月報」

○ 百貨店・スーパー・コンビニエンスストア販売額 [対前年伸び率]

○ ドラッグストア・ホームセンター・家電大型専門店販売額 [対前年伸び率]

(中国)
・百貨店は、前年同月に比べ休日が少なかったことや天候不順による影響で夏物衣料が伸び悩んだことなどから、3カ月ぶりに前年比マイナス（前年同月比▲0.1%）。
・スーパーは、雨天が多く雨傘やレインコートがよく売れたものの、気温が低く推移したことなどで夏物衣料が低調に推移し、20カ月ぶりに前年比マイナス（同▲1.4%）。
・コンビニは、販売促進効果により揚げ物などが好調だったものの、気温が低かったことからソフトドリンクやアイスが低調に推移し、2カ月ぶりに前年比マイナス（同▲0.7%）。

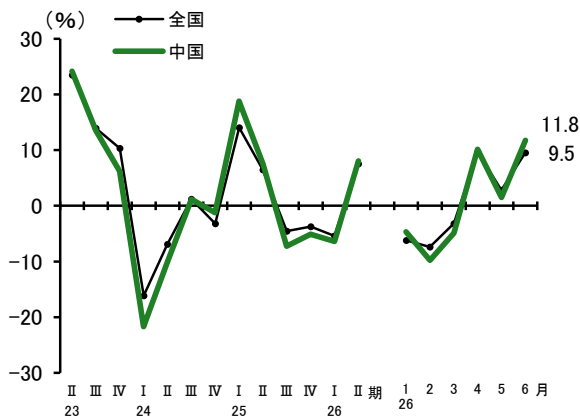
(中国)
・ドラッグストアは、指定濫用防止医薬品の販売規制が強化されたことにより総合感冒薬やOTC医薬品などが低調に推移し、6カ月ぶりに前年比マイナス（同▲1.7%）。
・ホームセンターは、気温が低く推移したことで殺虫剤などの季節商材が低調だったほか、雨天が続く園芸用品なども伸び悩み、2カ月ぶりに前年比マイナス（同▲9.8%）。
・家電大型専門店は、気温が低く推移したことで押し上げ要因だったエアコン需要が停滞したほか、冷蔵庫なども低調に推移し、6カ月ぶりに前年比マイナス（同▲5.9%）。



注：全店舗ベース
資料：経済産業省「商業動態統計月報」

● 新車登録・届出台数(乗用車) [対前年伸び率]

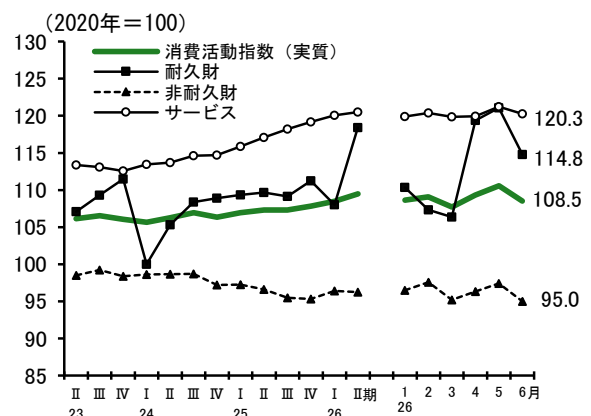
- (全国) 普通、小型乗用車が増加し、3カ月連続で前年比プラス(前年同月比+9.5%)。新年度からの自動車税一部廃止や補助金増額が新車購入需要を支えた。また、一部メーカーで供給制約の緩和が進んだことや、新型車効果が続いたことなどが販売台数増加に寄与した。
- (中国) 普通、小型、軽乗用車いずれも増加し、3カ月連続でプラス。全国同様、税制見直し等により新車購入需要が支えられた。また、一部メーカーで供給制約の緩和が進んだことや、新型車効果が続いたことなどが販売台数増加に寄与した。



資料：中国運輸局「新車登録・届出状況」、
(一社)全国軽自動車協会連合会「軽自動車新車販売統計」

● 消費活動指数(実質)

- (全国) 消費活動指数(季節調整済)は108.5(前月比▲1.8%)と、3カ月ぶりに前月を下回った。
- ・耐久財は、気温が低く推移したことでエアコン需要が伸び悩んだことなどから、前月を下回った。
 - ・非耐久財は、気温が低く推移したことで夏物衣料が低調に推移したことなどから、前月を下回った。
 - ・サービスは、飲食業や娯楽業が低調だったことなどから、前月を下回った。



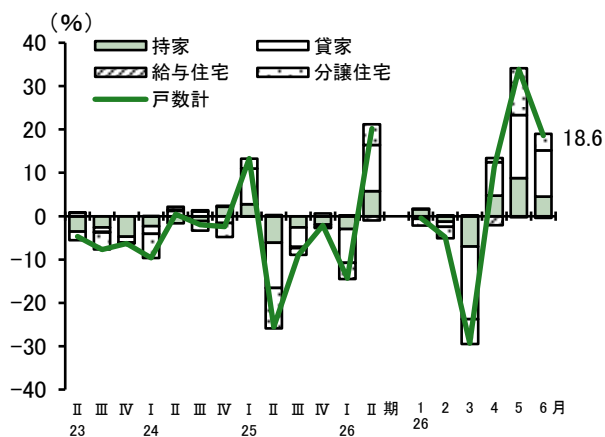
注：1. 季節調整済指数
2. 消費活動指数の形態別ウエイトは、耐久財 8.9、非耐久財 40.5、サービス 50.7
資料：日本銀行「消費活動指数」

3. 住宅投資(6月)

新設住宅着工戸数は、全国、中国ともに前年を上回った。

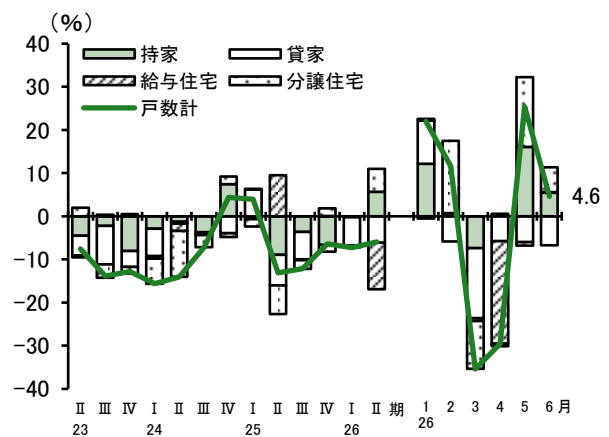
● 新設住宅着工戸数 [対前年伸び率]

- (全国) 省エネ基準の適合義務化を受けて前年同月が低水準であり、反動による押し上げがプラスの主要因。内訳では、給与住宅が若干減少したものの、貸家、持家、分譲住宅が増加し、3カ月連続で前年比プラス(前年同月比+18.6%)。



注：持家、貸家、給与住宅、分譲住宅は、新設住宅着工戸数の対前年伸び率に対する利用関係別寄与度
資料：国土交通省「建築着工統計調査報告」

- (中国) 全国同様、低水準だった前年同月の反動がみられた。内訳では、貸家が減少したものの、分譲住宅、持家、給与住宅が増加し、2カ月連続で前年比プラス。(前年同月比+4.6%)。



4. 設備投資・公共投資（6月）

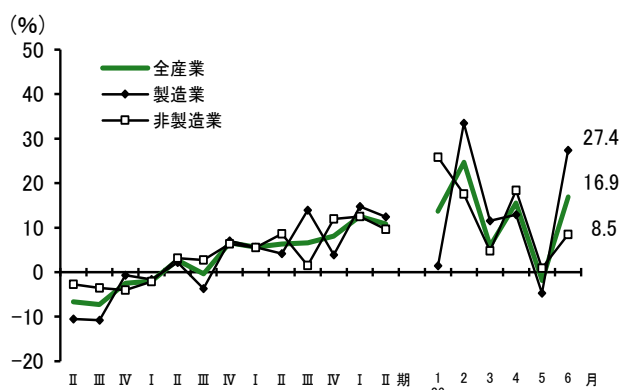
機械受注（全国）は、製造業、非製造業ともに前年を上回った。

公共工事請負額は、全国は前年を上回ったものの、中国は前年を下回った。

● 機械受注額 [対前年伸び率]

（全国）

- ・2カ月ぶりに前年比プラス（前年同月比+16.9%）。
- ・製造業（同+27.4%）は、非鉄金属が高い伸びとなったほか、電気機械、はん用・生産用機械も増加し、2カ月ぶりに前年比プラス。
- ・非製造業（同+8.5%）は、運輸業・郵便業などが減少したものの、通信業、金融業・保険業などが増加し、9カ月連続で前年比プラス。



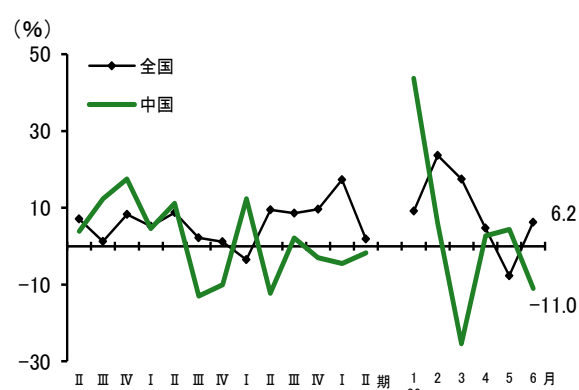
注：機械受注額は民需の合計であり、全産業、非製造業とも船舶・電力を除く数値

資料：内閣府「機械受注統計調査報告」、北海道建設業信用保証株、東日本建設業保証株、西日本建設業保証株「公共工事動向」

● 公共工事請負額 [対前年伸び率]

（全国）都道府県、市区町村からの発注が減少したものの、国、独立行政法人等、その他公共団体からの発注が増加し、2カ月ぶりに前年比プラス（前年同月比+6.2%）。

（中国）その他公共団体、都道府県が増加したものの、独立行政法人等、国、市区町村からの発注が減少し、3カ月ぶりに前年比マイナス（同▲11.0%）。

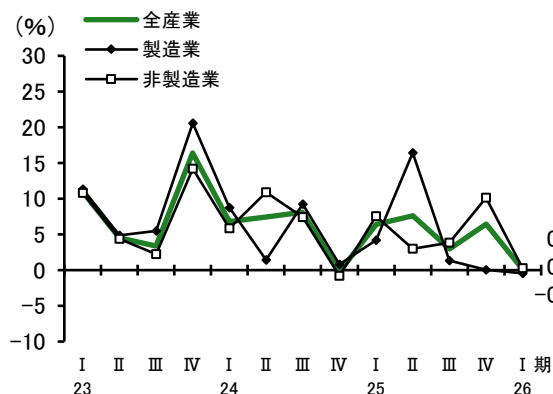


● 法人企業統計（2026年1-3月期）

設備投資額 [対前年伸び率]

（全国）

- ・1-3月期の設備投資額は、5四半期連続で前年比プラス（前年同期比+0.0%）。
- ・製造業は20四半期ぶりにマイナス（同▲0.4%）。
- ・非製造業は5四半期連続でプラス（同+0.3%）。



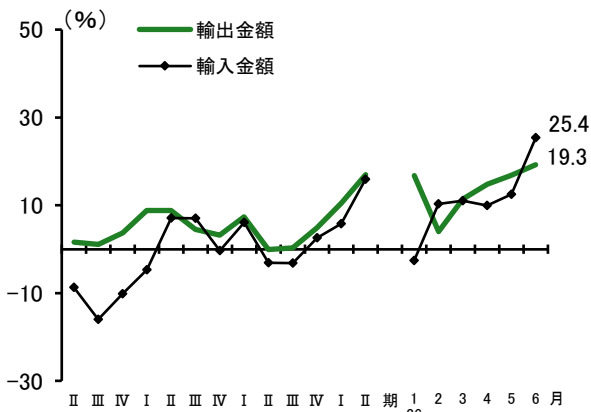
5. 輸出・輸入(6月)

輸出金額は、全国、中国ともに前年を上回った。

● 輸出・輸入金額 [対前年伸び率]

(全国)

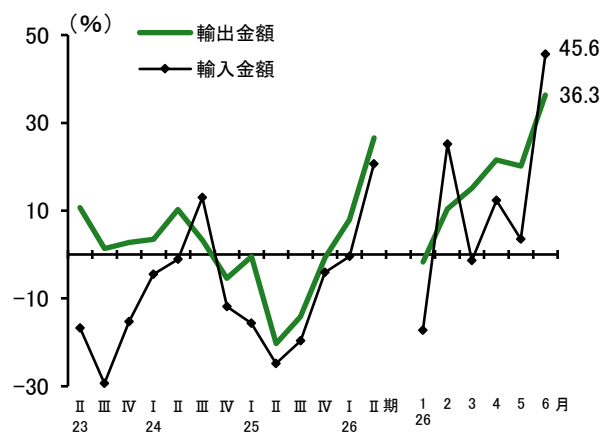
- ・輸出金額は 10 カ月連続で前年比プラス（前年同月比 +19.3%）。円安による輸出金額の押し上げに加え、自動車の新型車効果や堅調な AI 需要等がプラスの要因となっている。品目別では、欧米向けの自動車や中国などアジア向けの半導体等電子部品などが増加した。
- ・輸入金額は 5 カ月連続で前年比プラス（同 +25.4%）。中東からの調達難を受けて代替調達が進み、米国からの原油が増加したほか、半導体等電子部品なども増加した。



注：1. 輸出金額、輸入金額は円ベース 2. 輸出確報；輸入速報（9桁）
資料：財務省「貿易統計」、神戸税関「中国圏・各県貿易統計」

(中国)

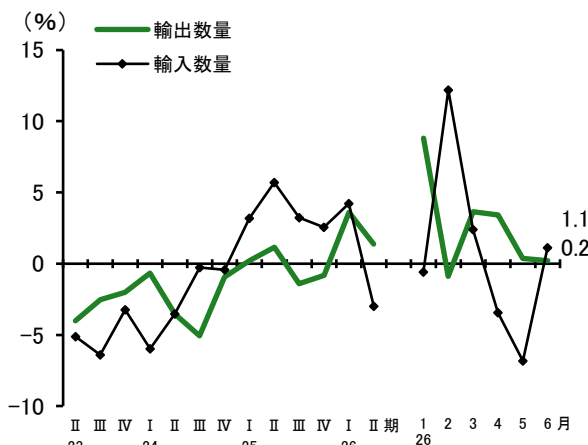
- ・輸出金額は 5 カ月連続で前年比プラス（前年同月比 +36.3%）。円安による輸出金額の押し上げに加え、自動車の新型車効果や堅調な AI 需要等がプラスの要因となっている。品目別では、欧州向けの自動車が大幅に伸長したほか、半導体等製造装置なども増加した。
- ・輸入金額は 3 カ月連続で前年比プラス（同 +45.6%）。全国同様、原油が増加したほか、国際市況価格の上昇を受けて非鉄金属などの鉱物資源が増加した。



● 輸出・輸入数量 [対前年伸び率]

(全国)

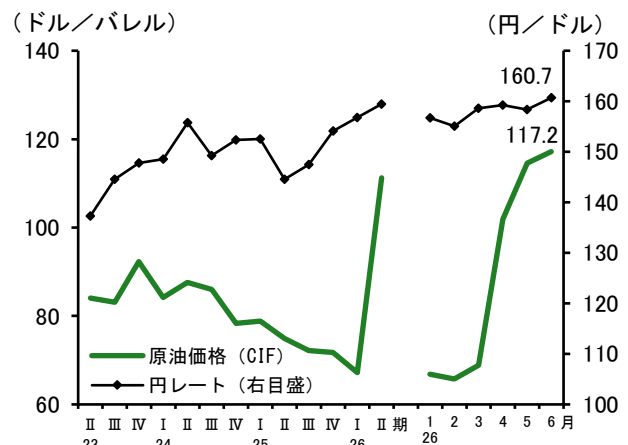
- ・輸出数量は 4 カ月連続で前年比プラス（前年同月比 +0.2%）。
- ・輸入数量は 3 カ月ぶりに前年比プラス（同 +1.1%）。



注：1. 輸出数量、輸入数量とも 2015 年=100 とした指数 2. 輸出確報；輸入速報（9桁）
3. 原油価格は全日本通関 CIF 価格
4. 円レートは東京外国為替市場の銀行間中心レートの月平均値
資料：財務省「貿易統計」

● 原油価格・円レート

- ・原油価格は 117.2 ドル/バレルと前年に比べ 46.9 ドル上昇（前月に比べ 2.6 ドル上昇）。中東情勢の悪化による供給不安を受けて大幅に上昇している。
- ・円レートは 160.7 円/ドルと前年に比べ 16.2 円の円安（前月と比べ 2.4 円の円安）。



6. 生産動向 (6月)

鉱工業生産指数は、全国は前月を上回ったものの、中国は前月を下回った。

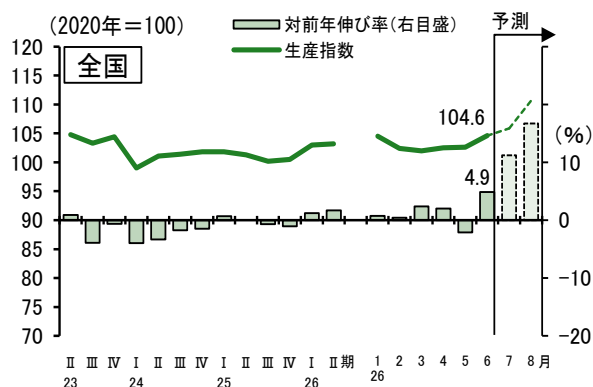
● 鉱工業生産指数 (総合)

(全国)

- 生産指数 (季節調整済) は、104.6 (前月比+1.9%) と3カ月連続で前月を上回った。半導体等製造装置などの汎用・生産用・業務用機械や医薬品を中心とする化学など、幅広い業種が上昇した。
- 生産指数 (原指数) は前年同月比+4.9%と2カ月ぶりにプラスとなった。

(中国)

- 生産指数 (季節調整済) は、106.5 (前月比▲1.4%) と3カ月ぶりに前月を下回った。堅調なAI需要を受けて集積回路などを中心に電気機械が高い伸びとなったものの、前月に高伸した反動等から自動車などが低下した。
- 生産指数 (原指数) は、前年同月比+7.9%と2カ月ぶりにプラスとなった。



7. 雇用情勢(6月)

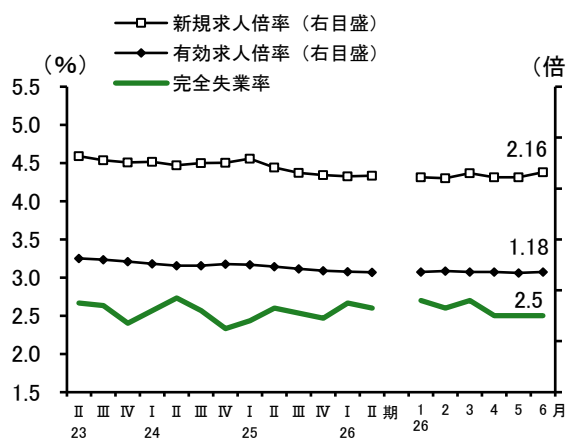
有効求人倍率は、全国、中国ともに、2カ月ぶりに上昇した。

新規求人倍率は、全国は2カ月連続で上昇、中国は3カ月ぶりに上昇した。

● 完全失業率、有効求人倍率、新規求人倍率

(全国)

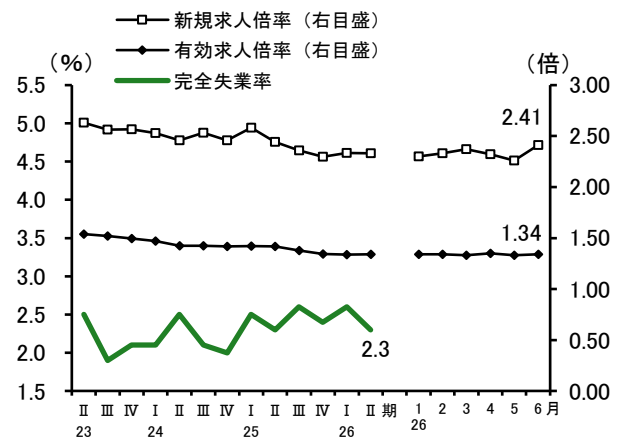
- 完全失業率は2.5%（前月差±0.0ポイント）と前月から横ばい。
- 有効求人倍率は1.18倍（同+0.01ポイント）と2カ月ぶりに上昇した。
- 新規求人倍率は2.16倍（同+0.05ポイント）と2カ月連続で上昇した。



主要産業における新規求人数の推移(全国)

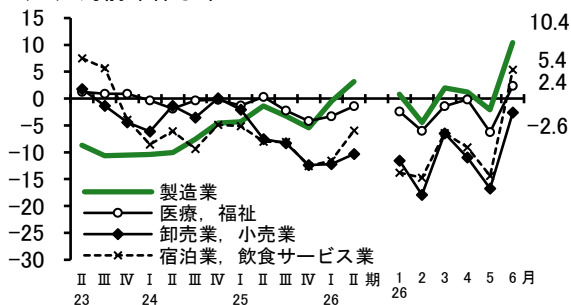
(中国)

- 4-6月期の完全失業率(原数値)は2.3%と、前年同期と比べ横ばい。
- 有効求人倍率は1.34倍（前月差+0.01ポイント）と2カ月ぶりに上昇した。
- 新規求人倍率は2.41倍（同+0.15ポイント）と3カ月ぶりに上昇した。



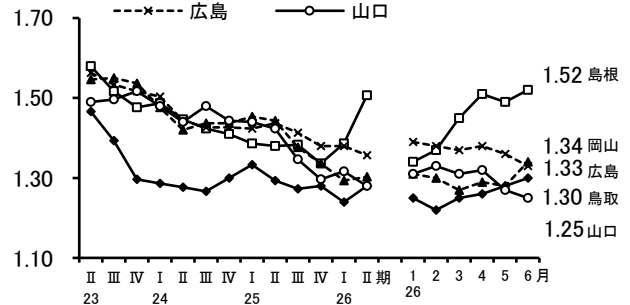
有効求人倍率の推移(中国5県)

(%) 対前年伸び率



注：完全失業率の月次、有効求人倍率、新規求人倍率は季節調整値、完全失業率の四半期は原数値
資料：総務省「労働力調査報告」、厚生労働省「職業安定業務統計」

(倍)

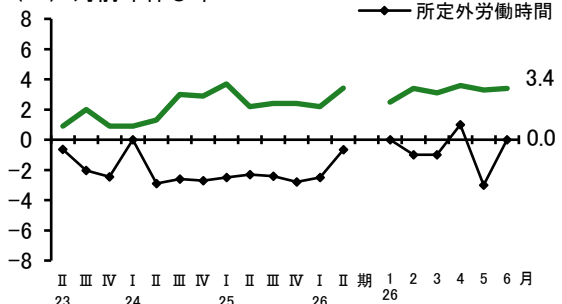


● 現金給与総額、所定外労働時間

(全国)

- 現金給与総額は54カ月連続で前年比プラス（前年同月比+3.4%）。
- 所定外労働時間は、前年比で横ばい（同±0.0%）。うち製造業は3カ月連続で前年比プラス（同+0.5%）。

(%) 対前年伸び率



注：1. 事業所規模5人以上の指数（2020年=100）の対前年伸び率 2. 最新月は速報値
資料：厚生労働省「毎月勤労統計調査」